



(仮称)藤子・F・不二雄ミュージアム

基本構想

平成20(2008)年12月

川崎市

目 次

| | | |
|----------------------|------------|----|
| はじめに | ・・・・・・・・・・ | 1 |
| 1 藤子・F・不二雄ミュージアムとは | ・・・・・・・・・・ | 2 |
| 2 ミュージアム整備に向けた基本的考え方 | ・・・・・・・・・・ | 2 |
| 3 ミュージアムの基本機能 | ・・・・・・・・・・ | 4 |
| 4 ミュージアムの活動 | ・・・・・・・・・・ | 5 |
| 5 施設概要 | ・・・・・・・・・・ | 6 |
| 6 ミュージアムの整備に向けて | ・・・・・・・・・・ | 10 |
| 7 立地場所について | ・・・・・・・・・・ | 12 |
| 8 今後のスケジュール | ・・・・・・・・・・ | 14 |



はじめに

藤子・F・不二雄氏は、長年、川崎市多摩区にお住まいになり、世界中の人々に愛される不朽の名作「ドラえもん」をはじめ、多くの「まんが」を生み出しました。

昭和56年には、川崎市文化賞を受賞されましたが、平成8年に永眠されました。

その後、藤子氏ご夫人から、原画約5万点を活用し、市民の方々に広く展示公開したいとお申し出をいただきました。

これを受けて、本市と藤子・F・不二雄氏の著作権管理及び作品の企画・製作を行っている藤子プロとで協議を進め、市内の様々な立地場所や事業手法等について検討を重ね、平成18年2月には、(仮称)藤子・F・不二雄ミュージアムの整備に向け、藤子・F・不二雄氏のご夫人である藤本正子氏、株式会社 藤子・F・不二雄プロ、川崎市の3者間で、「(仮称)藤子・F・不二雄アートワークス」の整備に向けた基本合意を取り交わしました。

この基本合意に基づいてミュージアム整備の基本的な考え方やミュージアムが備えるべき機能、そして、それを具現化するためにふさわしい立地場所や施設概要についての検討を関係機関と進めてきました。

そして、このたび、藤子プロから提案を受けた基本構想(案)を踏まえながら、「(仮称)藤子・F・不二雄ミュージアム基本構想」を策定しました。



1 藤子・F・不二雄ミュージアムとは

藤子・F・不二雄氏は、常に「子どもたち」に向けて作品を発表し続けました。

「藤子・F・不二雄ミュージアム」は、藤子氏が「まんが」を通して「子どもたち」に伝えてきた、「夢」「希望」「友情」「勇気」「大いなる好奇心」、そして、「人を愛するやさしい気持ち」などの大事なメッセージを、現在、未来に伝え続けます。

「藤子・F・不二雄ミュージアム」は、藤子氏の作品の原画やそれに関連した資料などを通して、将来にわたり、氏の業績を顕彰するとともに、「夢」「希望」等のメッセージを子どもから大人まで幅広い世代へ伝えていくための、世界に誇ることのできる文化施設として、整備するものです。

2 ミュージアム整備に向けた基本的考え方

藤子・F・不二雄ミュージアムでは、あらゆる世代に親しまれ、世界中の人々に支持され続ける「ドラえもん」「オバケのQ太郎」などの藤子氏の世界観を再現するため、藤子プロから提案をいただいた『藤子・F・不二雄ミュージアム（仮称）基本理念』を尊重するとともに、立地する地域環境との融和や川崎の貴重な地域資源にふさわしいたたずまいなどにも十分に配慮しながら、整備を進めます。



藤子・F・不二雄ミュージアム(仮称)基本理念

「描くのが楽しみ、読んでくれる人も楽しむ、そんな漫画がずっとぼくの理想なんだ」

あたたかみある笑い、ありふれた子ども達の日常、こだわり続けた「SF-すこしふしぎー」。

小さい頃からお話つきの絵を描き続けた藤子・F・不二雄は、
心まで笑顔になれる「まんが」を描き続けました。

「子どもたち」「読者」に伝えていきたい、夢、希望、友情、勇気、大いなる好奇心
そして、人を愛する優しい気持ち…。

これらの思いを、
本ミュージアムは現在に…そして未来へ伝え続けていきます。

- まんが文化 原画の魅力に直接触れ、作品を心ゆくまで味わい、大人も子どもも、「まんが世界」の楽しさを感じてもらえるミュージアム
- 遊びゴコロ 藤子・F・不二雄の「遊びゴコロ」に触れて、大人も子どもも笑顔のミュージアム
- SF-すこしふしぎー 藤子・F・不二雄流の「SF-すこしふしぎー」を体感できるミュージアム
- コミュニケーション
(ふれあい) 親子、家族、友だち、そして町の人々みんなで考え、楽しく一緒に育てていくミュージアム
- 新しい発見 ここでしか見ることができない、原画展示や映像訪れた人の好奇心を満足させる何度も来たくなるミュージアム
- 自然 周りの自然と共存し、季節を感じるミュージアム
- ホスピタリティ
(おもてなし) すべての人々に配慮の行き届いた、人にやさしく「心地よい」ミュージアム



3 ミュージアムの基本機能

ミュージアム整備に向けた基本的考え方を実現していくために、藤子・F・不二雄ミュージアムには、「収集・保管」、「展示・公開」、「調査・研究」、「広報・普及」の4つの基本機能を備えることとします。

(1) 「収集・保管」機能 = 藤子・F・不二雄氏の業績・メッセージを受け継ぐ

藤子・F・不二雄氏の作品及び作者に関する資料を収集します。

現在残されている藤子・F・不二雄氏の作品原稿約5万点及び藤子氏が収集した絵画、ビデオ、8ミリフィルムなどの貴重な資料は、後世に正しい方法で継承していく必要があります。それぞれの資料の特性を把握し、できるだけ現状を維持できる環境で保存することが大切です。

また、原画などの紙製の資料は劣化しやすいため、全ての資料のデジタル化及び資料の中でも特に重要と思われる資料については、複製化する必要があります。

(2) 「展示・公開」機能 = 藤子・F・不二雄氏のメッセージの浸透

調査・研究の成果や収集・保管された資料を展示・公開することは、藤子氏の作品の魅力やメッセージを多くの人に伝えることができる重要な機能です。

このミュージアムではただ研究発表をしたり、資料を陳列したりするのではなく、より多くの人に、藤子氏の作品がかもし出す、温かくのびのびとした雰囲気メッセージとして伝える大切な空間とし、その空間の中で来館者とミュージアムが一体となってコミュニケーション活動ができるような環境づくりを心がけることも重要です。また、幅広い世代が同一空間で楽しめるようにエリア分けをするなど、展示ストーリーや展示構成に十分配慮することも重要です。

さらにイベント企画などの開催により、常に新しい情報を発信していきます。

(3) 「調査・研究」機能 = 藤子・F・不二雄氏のすべてが分かる施設

藤子・F・不二雄氏の作品や資料を軸として、日本の誇れる文化の一つである「まんが文化」の切り口から藤子・F・不二雄氏の業績を研究し、その成果を、展示やワークショップという形を通して発表していくことが大切です。

(4) 「広報・普及」機能 = 藤子・F・不二雄氏のメッセージを伝える

様々な形でたくさんの人に情報を発信し集客性を高めることで、より多くの人にこのミュージアムのメッセージを伝えていきます。

また、旅行会社、メディアなどの一般企業との協調、学校や川崎市市民ミュージアム、さらに、生田緑地の文化施設などとの連携、その他公共媒体の利用やホームページの開設などにも取り組みます。



4 ミュージアムの活動

ミュージアムの基本機能に基づいて進めていく具体的な活動の内容は、ミュージアムの特徴や個性を表現する大切な要素となります。

他の類似施設にはない、ミュージアムならではの豊かな個性やミュージアムが発信するメッセージの訴求性、さらにはこうしたミュージアムの優れた特徴に呼応した実質的な来館者数も、この活動の内容に大きく影響を受けます。ここでは、「藤子・F・不二雄ミュージアム」の基本的な考え方に沿った活動を特徴づける視点として、3つの柱を掲げます。

知る

訪れた人々の好奇心の充足と満足感

原画の魅力に直接触れ、作品を心ゆくまで味わい、大人も子どもも、「まんが世界」の楽しさを感じてもらうことにより、新しい発見をしながら、来館者の興味や好奇心を満足させる活動を行います。

<活動例>
企画展示
常設展示
ライブラリーの設置
オリジナル映像の公開

感じる

心と体で感じる、藤子・F・不二雄ワールド

「学ぶこと」と「遊ぶこと」を両立させ、ミュージアムのメッセージを伝える活動。藤子・F・不二雄氏流の「SF - すこしふしぎ - 」を体感したり、ミュージアムのホスピタリティ（おもてなし）を感じたりしてもらいながら、来館者の心に残る活動を行います。

<活動例>
企画展示
イベント開催
ワークショップ開催
スタッフとの交流

楽しむ

さまざまな"楽しさ"の共有

来館者を待ち受ける、藤子・F・不二雄氏流の「遊びゴコロ」満載の数々の楽しい仕掛けや、仕組みづくり、このミュージアムを訪れたことによる、共通の体験を通して生まれる、観る楽しさ、参加する楽しさ、知る楽しさなどを考え、活動に反映します。

<活動例>
ワークショップ開催
オリジナル映像の公開



5 施設概要

(1) 施設構成

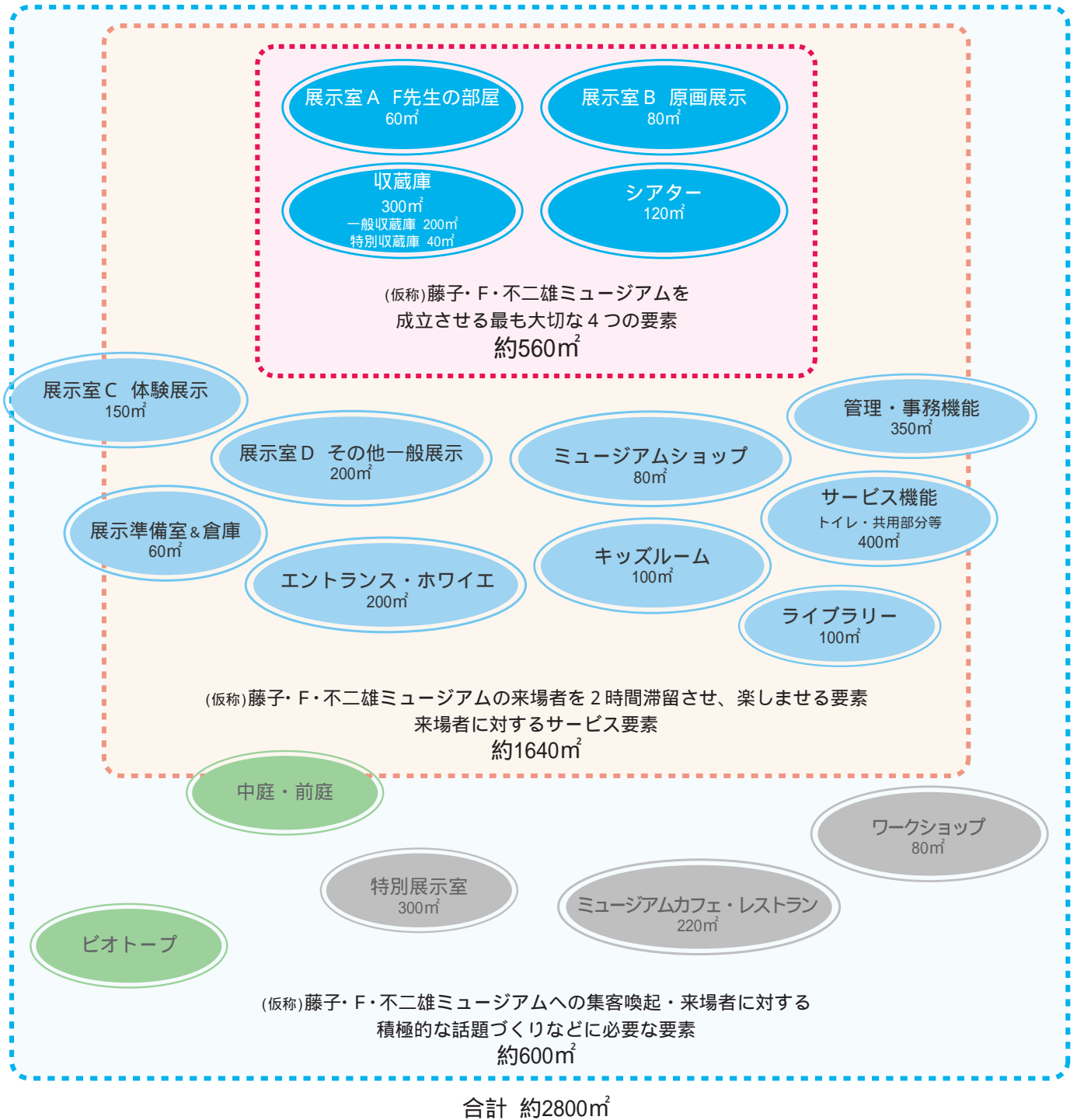
ミュージアムの機能や活動内容を踏まえ、望ましい施設規模を以下のとおり想定します。
ミュージアムの年間入場者数を50万人と想定し、館内の最高収容人数1,000人と割り出します。
一人につき1㎡として、算出された延床面積=2,800㎡を基に施設の機能を当てはめることとします。
これにより、建物の延床面積を2,800㎡と前提した場合の施設機能は以下のとおりとします。

*) 展示部門(準備室、倉庫除く) 790㎡ + 交流部門 300㎡ + 共用部門(エレベーター、トイレ除く) 400㎡
= 1490㎡ × 2/3(展示制作物を除く) = 993㎡
1人/1㎡として、収容人数993名

| 部 門 | 室 名 | 面 積 | | 面積比 |
|--------|--------------|-------|-------|-------|
| 展示部門 | 展示室A [先生の部屋] | 60㎡ | 850㎡ | 30.4% |
| | 展示室B [原画] | 80㎡ | | |
| | 展示室C [体験] | 150㎡ | | |
| | 展示室D [その他一般] | 200㎡ | | |
| | 特別展示室 | 300㎡ | | |
| | 展示準備室&倉庫 | 60㎡ | | |
| 収蔵部門 | 一般収蔵庫 | 200㎡ | 300㎡ | 10.7% |
| | 特別収蔵庫 | 40㎡ | | |
| | 荷受・荷解室 | 60㎡ | | |
| 交流部門 | シアター | 120㎡ | 300㎡ | 10.7% |
| | ライブラリー | 100㎡ | | |
| | ワークショップ | 80㎡ | | |
| サービス部門 | カフェレストラン | 220㎡ | 400㎡ | 14.3% |
| | ミュージアムショップ | 80㎡ | | |
| | キッズルーム | 100㎡ | | |
| 管理部門 | 館長室 | 350㎡ | 12.5% | |
| | 応接室 | | | |
| | 事務室 | | | |
| | 会議室 | | | |
| | 書庫 | | | |
| | 倉庫・機材庫 | | | |
| | 機械室 | | | |
| 共用部門 | エントランスホール | 200㎡ | 600㎡ | 21.4% |
| | 受付 | 200㎡ | | |
| | コインロッカー | | | |
| | 回廊 | | | |
| | 共用通路・階段等 | | | |
| | エレベータ | 200㎡ | | |
| | トイレ | | | |
| 合 計 | | 2800㎡ | 100% | |



(2) 施設機能構成





(3) 施設イメージ

基本構想策定時点の施設イメージであり、今後、基本計画でさらに検討を進めていきます。

庭イメージ

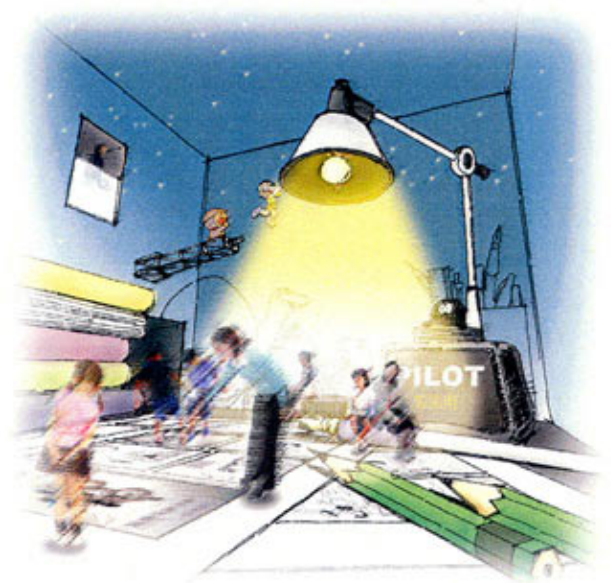


展示イメージ 1

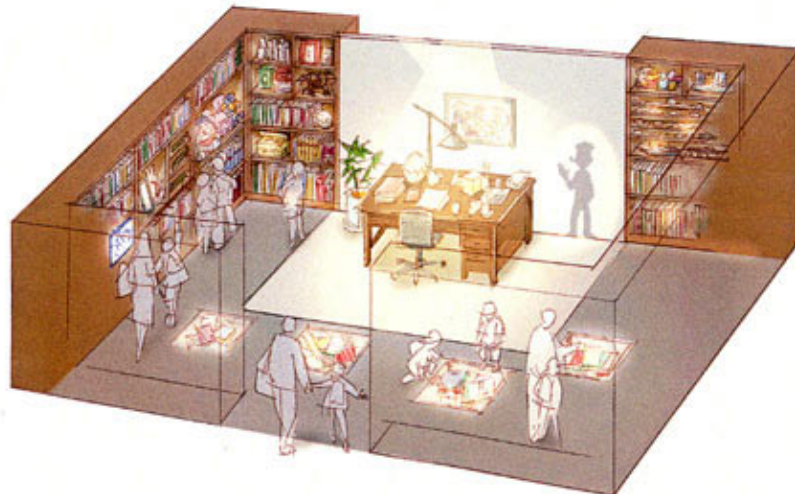
エントランスA「パノラマボックス」



エントランスB「ビックリ・デスク・ホール」



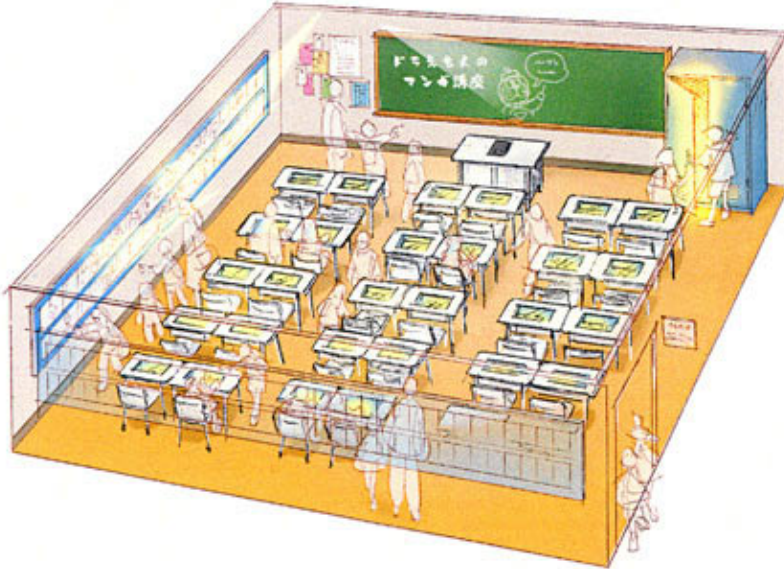
展示室 藤子・F・不二雄氏の世界「先生の部屋」





展示イメージ2

展示室 藤子・F・不二雄氏の世界「原画展示」



ギャラリー「まんがの世界体験ギャラリー」



シアター「ここだけシアター」





6 ミュージアムの整備に向けて

平成18年2月7日、川崎市と藤子プロは、「(仮称)藤子・F・不二雄アートワークス」の整備に向けて、お互いに協力し、その実現に向け、次の事項を確認しました。

「(仮称)藤子・F・不二雄アートワークス」の整備に向けた 基本合意

川崎市と藤子プロは、「(仮称)藤子・F・不二雄アートワークス」の整備に向けて、次の事項を確認し、お互いに協力して、その実現に向けた取組みを行うものとする。

- 1 「(仮称)藤子・F・不二雄アートワークス」は、子どもたちの夢と希望を育み、藤本弘氏の作品を通じて、「夢」「希望」「優しさ」「温かさ」「勇気」などの大切なメッセージを全国世界また後世の人々に対して発信できる文化施設とする。
- 2 アートワークスの立地場所は、生田緑地内を有力な候補地とし、立地にあたっては、十分、緑と環境に配慮する。
- 3 開館時期は、5年以内を目途に、できる限り早期実現をめざし、双方努力する。
- 4 事業の推進にあたっては、藤子プロを含めた民間活力を活用することを基本とし、建物整備及び運営は民間主導、土地・基盤整備は市主導を基本的な役割分担とする。
- 5 事業内容の詳細は、今後、川崎市と藤子プロで内容を協議し、覚書を結ぶこととする。

平成19年1月に、名称を「(仮称)藤子・F・不二雄アートワークス」から「(仮称)藤子・F・不二雄ミュージアム」に変更しました。



今後、この基本合意に基づき、具体的な事業内容や手法の検討を進め、覚書を締結し、藤子・F・不二雄ミュージアムの整備を推進していきます。



7 立地場所について

(1) 立地に向けた基本的考え方

「藤子・F・不二雄ミュージアム」については、藤本正子氏及び藤子プロから建物を本市にご寄贈をいただく予定です。藤本正子氏及び藤子プロのご意向を踏まえ、「川崎市北部の緑豊かな地域」で、延床面積 2,000 ~ 3,500 m² を想定するとともに、地域の方々や関係事業者のご意見を伺いながら、次の視点を踏まえて立地場所の検討を行いました。

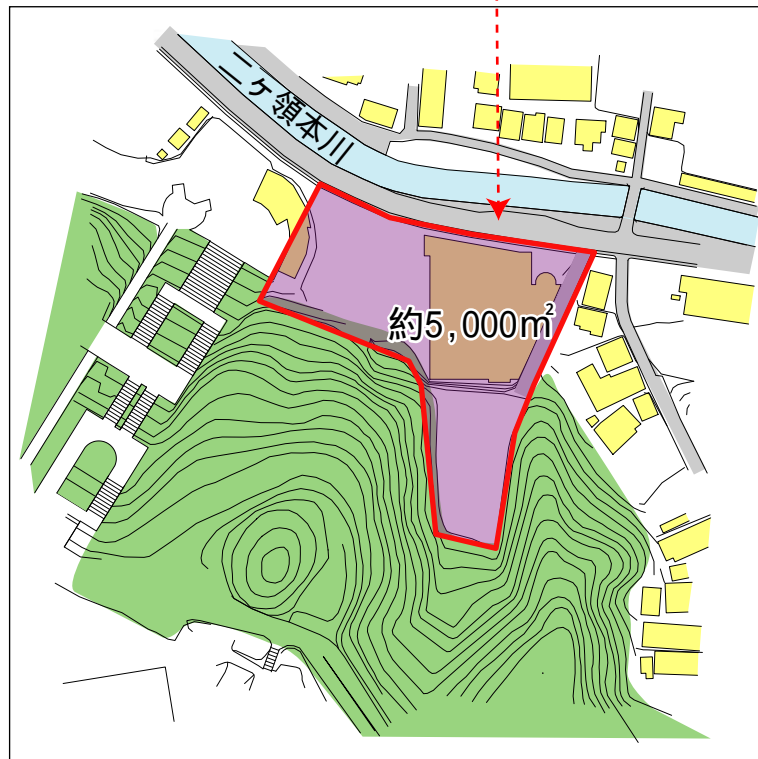
ア 立地場所の選定にあたっての3つの視点

- (ア) 緑地の自然保護に十分配慮し、新たな緑の伐採を行わない場所
- (イ) 鉄道駅及び道路アクセスの利便性の高い場所（駅から徒歩圏内）
- (ウ) ばら苑などをはじめ、緑地周辺の自然施設・文化施設などの回遊性がある場所

(2) 立地場所の選定

上記の視点を踏まえ、平成19年3月に「向ヶ丘遊園跡地内」に候補地を決定しましたが、周辺の開発の状況や交通アクセス等の諸条件を総合的に勘案し、同跡地内の次の場所を立地場所とします。

地番：川崎市多摩区长尾2丁目1271番1 他（別図のとおり）



現地航空写真（北側より望む）





8 今後のスケジュール

この「基本構想」で示した「藤子・F・不二雄ミュージアム」の基本機能や施設概要は、今後策定する「基本計画」において、さらに具体化させていきます。

一方、平成18年2月の基本合意に基づき、市と藤子プロで、ミュージアム建設及び運営の手法や事業内容の詳細について定める覚書を締結していきます。

事業の推進にあたっては、藤子プロを含めた民間活力を活用することを基本とし、建物建設及び運営は民間主導、土地・基盤整備は市主導を基本的な役割分担とすることから、藤子プロが主導で（素案）を策定し、市に提案します。市は、ミュージアムを公の施設とするにあたり、藤子プロから提案を受けた（素案）をもとに「基本計画」を策定します。

今後のスケジュールとしては、藤子プロから提案を受けた「基本計画」（素案）をもとに、幅広いご意見をいただきながら、平成21年度に「基本計画」を策定・公表していきます。

平成21年度には、この「基本計画」を基に設計をすすめ、平成22年度には着工し、平成23年秋の開館に向けて、準備を進めます。